

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 4 - 17

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		交通安全対策特別交付金事業								
評価者	担当課名	住民生活課		担当係名	住民活動係					
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長				
		氏名	渡邊孝司	氏名	石山英伸					
事業の概要	道路環境の整備を目的として、交通安全対策特別交付金により、車両通行により視認しにくくなった区画線の塗装や、スノーポールや標識等の設置を行っている。					全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度)				
						事業費	国・道支出金	6,100 千円	地方債	千円
実施方法	直営	民間委託		その他 ( )						
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業	非登載事業	優先度	B					
事業の位置付け	政策目標	4	うるおい・雄武 ~ 生活環境・生活基盤の充実 ~							
	基本施策	20	防犯・交通安全の推進							
	単位施策	2	交通安全対策の推進							
	事務事業の種類	自治事務		法定受託事務						
	その他計画・根拠等	交通安全対策特別交付金等に関する政令								
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)				
	国・道支出金	1,114 千円	1,086 千円	1,200 千円	1,200 千円	1,200 千円				
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円				
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円				
	雄武町負担額 (一般財源)	186 千円	114 千円	千円	千円	千円				
	合計	1,300 千円	1,200 千円	1,200 千円	1,200 千円	1,200 千円				

602

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	道路環境に起因する問題が交通事故発生要因のひとつとなっている	区画線塗装総延長、スノーポール購入本数			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	路側帯やセンターラインの塗装、スノーポールや標識の設置により、道路環境を整備する	指標(指標計算式/解説)	目標年度	平成21年度	
		区画線塗装実績延長/区画線塗装計画延長	目標値	10,700 m	
			実績値	10,890 m	
			達成度	101.8 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	交通事故の減少	ポール購入実績本数/ポール購入計画本数	目標年度	平成21年度	
			目標値	100 本	
			実績値	75 本	
			達成度	75 %	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
道路区画線の塗装	町道をパトロールして区画線が薄くなり視認しにくい場所を確認するとともに、交通量を勘案したうえで塗装路線を選定し、区画線塗装を行った。				
スノーポールの購入	冬期間に路肩に設置するスノーポールについては除雪作業等による損傷があるため、毎年購入して更新を行っている。				

### 3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	当事業の財源である交通安全対策特別交付金は、道路環境整備を目的としたものであり、また町道の環境維持は道路管理者である町が行うべきものである。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	スノーポール購入本数は目標をやや下回ったものの、購入するポールの種類によって本数が大きく増減するものであり、破損内容に応じて計画的な購入を進めている。また、近年の交通事故件数は低い水準で推移している。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	道路延長は伸長傾向であるが、道路の交通量や傷み具合を勘案して整備箇所を優先順位を設けるなど、原資である交通安全対策特別交付金を有効活用してコストに見合った効果が得られている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	道路は不特定多数が利用する公共性の高い社会基盤であることから、公正性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価(A~D)

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
円滑な交通の確保と交通事故防止のため、今後も計画どおり事業を進めることが適当である。	同左	

<b>今後の展開方向</b> (Action)	↓	↓	↓
	継続 / 現状維持	継続 / 現状維持	
従前どおり必要路線に対して整備を継続する。	同左		
継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更			終了 休止 廃止

### 5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--